

令和6年度 第2回岩美町男女共同参画審議会 議事録

- 1 日 時 令和7年3月28日（金）午前10時00分～午前11時50分
- 2 場 所 岩美町役場 2階 中会議室
- 3 出席者 出席委員8名 欠席委員3名
（委員） 山田 恭子（女性団体連絡協議会） 中島 紀子（女性団体連絡協議会）
土井 啓子（女性団体連絡協議会） 岩垣 伸一（社会福祉協議会）
山崎 洋二（自治会長会） 日下部 衆理（地区公民館長会） 中沢 政春（公募）
田中 仲雄（公募）
（事務局） 次 長 橋本 大樹（岩美町教育委員会事務局）
係 長 濱田 博之（ // ）
主 任 廣田 哲子（ // ）

4 概 要

1 開 会

委員総数11名のうち、本日の出席委員は8名で過半数に達しており、審議会は成立

2 あいさつ

山田会長からあいさつ

3 議 事

（1）いわみ虹色プランー岩美町男女共同参画計画ーに係る令和6年度事業実施状況について

（事務局から取り組み内容について説明）

- 委 員 11月4日の女（ひと）と男（ひと）のつどいの講演は、有名人だったので、ご夫婦で参加された方もあり、満席に近い参加でよかったと思う。
- 委 員 若い男性の方も参加していい雰囲気だったと思う。
- 委 員 町民意識調査の数値を見ると令和2年、令和5年、6年とあまり変わっていない。これを変えるのをどうしたらいいかを考えなければいけない。今、小学校では料理とか男子児童もするのか。

- 事務局 今は、男女一緒に家庭科と技術の授業をしています。
- 委 員 賃金も上がってきているが男性と女性で差があり、岩美町の広報の求人広告を見ても賃金が低い。管理職の割合は増えてきてはいるが遅々として進んでいない。
- 委 員 事業実施状況をご説明いただいたが、こういう事業計画を作って何かをやり、次の年にどう繋げていくのかを行うためにPDCAというのがある。実施状況にその評価を入れて、次に繋げていくための整理をしたほうが良いのではないかな。また、特定事業主行動計画の昨年度の情報や取組の公表での年次有給休暇、出産休暇、育児休業の取得率を見ると、やはりまだ男性は子育てに積極的ではないと思われる。役場は、男性の育児休業を取得しやすいかもしれないが、民間での取得となると難しいところがまだ多いのではないかなと思う。
- 委 員 最近、顕著に変わったと感じることは、子供の予防接種に昔はほとんどが母親の同伴であった。最近は、結構父親の姿を見るので、その現状の変化に父親の同伴が当たり前になりつつあることに感心し、変わってきたことを感じた場面であった。男女共同参画の視点に立った学校教育等の推進っていうのはどういう授業か。
- 事務局 学校生活の中では男女平等とか多様性については取り組まれており、考え方は浸透していていると思います。しかし、授業のなかでとなると先生方それぞれのカラーが出るところで、積極的に取り入れていただくように周知を行っているところですが、そこは学校の考え方もあり難しいところです。
- 委 員 役場の男性の育児休業取得率について、令和元年度から5年度まで対象者21人のうち、結果的に取得したのは1人というのは厳しい数字だと思う。県庁とか県内の大きな企業などはどんな感じなのだろうか。特に岩美町だけが進んでいないということではなく、県全体としてもそうではと思うが、なぜ進まないのだろうか。
- 事務局 基本的には数ヶ月、年単位で取るのが育児休業ですが、長期間での取得となると役場内ではまだ実績がありません。しかし、第三子が生まれた若手の男性役場職員が1年以上の長期間に渡り育児休業を取得しているところです。これを好事例として次の取得者へ繋げていきたいと思っているところです。
- また、育児休暇については、出産時に休みを取って立ち会うなど1日単位で取れる制度です。例えば、役場職員は5日の範囲で取得することができます。

7割程度の男性職員は取得していると思います。鳥取県では、特に県警については管理職のほうから職員へ積極的に取得するよう声をかけており、その効果により取得率が上がっていると聞いています。

大きな組織体は、1人の抱えている仕事量を分散しやすいため取得しやすい傾向にあるのではないかと思います。ただ、小さな組織でも計画的に取ることで、例えば休業期間中の職員補充などの手立てにより、育休が取りやすくなる環境をつくることができると思います。その取組や周知をもっと行っていく必要があるのではないかと思います。

●委 員

私が以前勤めていた会社では、男性も女性も全く関係なく、1人1人が毎日一体どんな仕事をしているか何年かかけて業務の洗い出しを行うなど、業務改善に取り組んだことがある。

いつもと同じように皆それぞれ仕事をしているが、そこに無駄な仕事が本当はないのか洗い出すことで、どんな仕事をどのようにしているのか非常に明確になりその無駄を見つけ省くことができる。

また、育休が取りにくいという男性職員がいれば、その仕事が本当にその人だけにしかできない業務なのか、業務量が偏っているのなら、いろんな面での平準化を図れば急に誰かが抜けてもそこをカバーできる体制がとれる。そういうところから改善していかないと、育児休暇取得率の低迷という問題も解決しにくいのではないのかと思う。

●委 員

12月に防災に関する研修会に講師を招いて実施しているが、今、災害時でのボランティア活動であるとか地域活動における女性の視点というのは非常にクローズアップされていると思う。世間も災害に関することにおいては注目しており、災害に対して非常に強い意識があるので、そういうところから住民の意識を変えていく一つの大きなきっかけとなる取組だ。男女共同参画がテーマの講演会をやると言ってもなかなかそこに人が集まらないが、住民が関心を持ちやすいところをテーマにし、かつ男女共同参画の視点を取り入れたこの取組の実施は非常に良かったと思う。

(2) 岩美町男女共同参画に関する町民意識調査・事業所調査結果について

(事務局から取り組み内容について説明)

○事務局 今回の町民意識調査の回収率が低く、例年の調査では平均30%以上あるのですが、30%を下回る結果となりました。やはり質問の内容が難しいということだったのでしょうか、数件、白紙のままの調査票が返送されておりました。

●委 員 これらの調査結果が審議会の資料としてのほかにどういうところで活用、利用されるのか教えていただきたい。

○事務局 いわみ虹色プランという男女共同参画計画を策定し、基本テーマと重点目標を掲げて様々な取組を行っていますが、その計画の策定時の基礎資料として調査結果を活用するのを主としているところです。

●委 員 調査結果を何らかのかたちで町民へ返していくことはあるのか。

○事務局 町のホームページに調査結果などを公開していますし、計画策定の基礎資料とした内容を中心に、調査結果の一部を広報で周知しています。

●委 員 この調査結果も事業の実施状況と同じで、結果をもとに評価に関わるようなことも多少は書いてあるが、結果で出たパーセンテージが妥当なのかは一般の人たちには分からないのではないだろうか。コンサルなどが結果をもとに課題の掘り起こしや評価みたいなことをやってくれると思うが、そこまでやるようにするべきでないだろうか。

○事務局 本日お示ししておりますこの調査結果につきましては、手作業で集計しましたものを分析して説明させていただいたところですが、その内容がこの調査結果から見えてくる傾向やポイントではないかと思っていますところ。コンサルなどに委託すれば、また別の視点からの意見がいただけたと思いますが、担当職員の今日までの知識と実績をもとに課題の掘り起こしや今後目標とするものを見極めていこうという方針でやっているところです。従いまして、今回の調査の結果から見えてきた傾向を次期計画にどう生かしていくかというところを委員の皆さんと議論しながら、ともにつくっていければと考えております。

●委 員 今回調査での質問項目の量は増えているのか。

○事務局 前回調査のときは質問項目が多かったようです。当時の審議会委員の方の何人か送られてきた調査票にお答えいただいたようでしたが、「とても難し

くて、回答に時間がかかった」などの声がありました。それらの意見を参考に、6年度は質問項目を再検討し項目を減らしましたが、自由記載の中にありますように、「難しい、理解しにくい」との意見があり、回収率も30%を下回る結果となってしまいました。

また、若年層の回答率を上げるためインターネットを介して回答できるようにしましたが、年齢が高い方々が郵送で返してくださるほうが多かったという結果でした。

●委 員 電子申請で回答された方は何人であったのか。

●事務局 51人でした。

●委 員 こういう調査をするときは、集計するかどうかは別にしてどこの地区に住んでいるのかを問に入れておけば、この地区はこういう考えなのだと比較ができ、もう少しきめの細かい話ができるのではと思う。

○事務局 住んでいる地区を問に入れるのは一つの方法かと思います。やはりその地区の住民としての意識が働き、回答数に影響するのかもしれない。

(3) その他

●会 長 何かご意見等がありますか。

(委員全員がなし)

4 閉 会

以上をもって議事全ての審議を終了し、午前11時50分閉会した。